

すばらしき“みえ”

FOR NICE COMMUNICATION

2020.4
215号

■特集／みんなで楽しもう！ ニュースポーツ

●いま、グループネット／自然体験あそび塾 チームわらべ ●みえを歩こう／いなべ市大安町 片樋界限



みんなで楽しもう！ニユースポーツ

来年は「三重とこわか国体」(第76回国民体育大会)「三重とこわか大会」(第21回全国障害者スポーツ大会)が開催される予定です。また、「東京オリンピック」の開催も予定され、ひたむきにスポーツに打ち込む選手たちの姿や、絆の強さに感動する日々が続くことでしょう。

そうした中、新たなスポーツも誕生し、県内でも広がりを見せています。いつでもどこでも、誰にでも気軽に参加できるようにと考えられたニユースポーツは、男女を問わず、どの年代からでも始めることができ、生涯を通じて楽しめるのが魅力となっています。

この春からは、夫婦・親子、そして友人たちと、新しく楽しいニユースポーツに挑戦してみたいかがでしょう。

*三重県内には、ほかにニユースポーツを楽しめる場所や大会があり、協会なども存在しています。ここで紹介するのは、ごく一部です。

*各ニユースポーツの練習や大会などの開催日時・場所・受け入れ方法・人数・料金などは、それぞれに異なり、変更する場合もあります。必ず、事前にご確認ください。

取材・文…中村真由美・中村元美
撮影……梅川紀彦・尾之内孝昭
ただし※印の写真は取材先から提供していただきました



南フランス発祥、約55の国々で親しまれる

ペタンク

【事務局 津市】



「ペタンクフレンドシップ伊勢大会」

タンクフレンドシップ伊勢大会」の真つ最中。あちこちから仲間への声援が聞こえてきます。しばらく見学していると、2人1組になって、公式野球ほどの大きさのボールを、赤や黄色の目標球に向かって投げ合い、その距離の近さを競い合っているのがわかります。

「あの小さな目標球は木製で、ビュットといえます。投げているボールは金属製で、直径は7.05、8センチメートル、重さは650、800グラムと決められています。今日は2人对2人のダブルスですが、シングルスやトリプルスで行う場合もあります」と教えてくれるのは「三重県ペタンク協会」(山下 正義

「オッすごい」「惜しい、惜しい…」小春日和のある日、伊勢市楠部町の「倉田山公園野球場」(ダイヤモンドスタジアム伊勢)のサブグラウンドを訪ねると、「ペ

されています。

「ペタンクは、土の地面であれば、いつでも、どこでも、誰でもできます。ただ、簡単そうに見えて実は、体の動き、手の使い方、スピンのかけ方に技が必要です。だから、思いどおりに投球できたときは最高です。しかも、子どもや80代の方でも、成人男性に勝てるのも特徴といえます」と平松さん。この日の参加者の中で最高齢者、85歳の伊藤伊代さんに話を伺うと、「今まで体験したことがないことをしたくて始めましたが、思った以上に奥が深いです



ペタンクのボールと赤色のビュット



ペタンクの投球風景



ボールとビュットの距離をメジャーで正確に測る。



「ペタンクフレンドシップ伊勢大会」参加者

ね。まだまだ練習しなくちゃ」とのこと。その明るい笑顔が、ペタンクの魅力を雄弁に物語っていました。

お問い合わせ

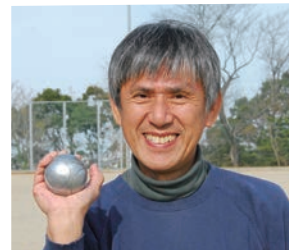
三重県ペタンク協会事務局
TEL 090-11479-5365

(平松 宏之さん)

理事長)事務局の平松 宏之さん。レクリエーション・コーディネーターとしても活動する平松さんにボールを持たせてもらおうと、ずっしりとした重みを感じました。ペタンクでは、手のひらを下にして持って投げるのだと教わります。こうすると、バックスピがかかって、めざす場所に止めやすくなるのだといいます。

ペタンクの起源は意外と古く、明治43(1910)年に遡ります。いつでも少しのスペースで、しかも少数人数でもできることから、現在、約55か国で親しまれています。特に発祥国フランスでは、競技人口が500万人を超え、公園や広場でプレーに興じる人々の姿が見られるといえます。

そんなペタンクが日本に入ってきたのは、昭和40年代の初めごろ。同45(1



平松 宏之さん

タスポニー

【事務局 四日市市】



『四日市市立中央小学校』体育館での練習風景(毎週水曜日予定)



タスポニーのボール

「もともとリハビリ用だったので、ぶつかっても痛くないし、軽いでしょう?」と、黄色いボールを渡してくれるのは「三重県タスポニー協会」(馬場 宏会長)の事務局次長を務める浅田 勉久さん。直径は約17センチメートル、重さ約50グラムで、スポンジ製のために感触もよく、一見すると遊具のようです。



浅田 勉久さん

「タスポニーはテニスに似ていますが、ラケットを使わず素手で打ち合うため、簡単に習得できるのが魅力です」と浅田さん。コートの広さはテニスコートの4分の1程度、中央に張るネットの高さもテニスよりも約30センチメートル低いため、女性や小学生でもラリーが続く、テニ

スの醍醐味を味わうことが可能。強く打ち込めば、バレーボールのアタックが決まった時のような爽快感も味わえるといいます。しかも、ボールがあまりバウンドしないため、腰を落とした体勢で打ち返すことなどから、適度な運動にもなるといいます。

現在、県内では協会や四日市市主催をあわせて、年に7回程度の大会が開催されています。来る、5月10日(日)には「三重県タスポニー大会」が「四日市市霞ヶ浦体育館」で開催予定。一度、見学してみたいかがでしょうか。



「中央タスポニークラブ」の皆さん

お問い合わせ

三重県タスポニー協会事務局
TEL 090-3454-5744

(浅田 勉久さん)

気軽にゴルフの醍醐味を味わえる

ターゲット・バードゴルフ

【事務局 名張市】



直径約1メートルのネットの器具を狙ってスイング



羽根付きボールはカラフル

れを考えて打たないといけないので面白いんですよ」と三重県ターゲット・バードゴルフ協会「(川合 滋会長)の副会長を務める森本 定利さん。

「ナイスパー」ホールインワン、狙えるよ」と、芝生の上での掛け声は、まさにゴルフと一緒にです。技術面やマナーもほぼ同じですが、「ターゲット・バードゴルフ」がゴルフと大きく違うのは、ボールと狙うホールです。羽根の付いたボールを使い、パラソルを逆さにしたような器具がホールとなり、コースを回ってスコアを競います。「羽根が風の影響を受けやすく、逆にそ



「名張市ターゲット・バードゴルフ協会」の会長も務める森本 定利さん

平成13(2001)年の「全国スポーツ・レクリエーション祭」で大会を開催したこともあり、名張市には常設のコースがあるので天気次第で毎日利用する人もいます。必要な道具はボールとクラブ、それにスイングマットの3点。クラブは長距離も短距離も1本で打ち分けなければなりません。「力加減ではなく、クラブの長さや振り幅で調整します。ホールに近づけば近づくほど難しくなり、クラブを開く角度で工夫します。距離感をつかもつと、みんな熱心に研究されていますね」と森本さん。

取材の日の「ハンディキャップ大会」には、55歳～89歳までが参加。「ホールに入った時の爽快感は格別です。18ホールまわれば4,5000歩になりますから健康にもいいですね」と話す参加者の姿勢のよさも際立ちました。美しいスイングのフォームは、基本を忠実に守って練習を重ねているからこそ。

休憩中は、スマホの扱いや野菜づくり、医事相談やDIYといった話に花が咲きます。ゴルフは紳士淑女のスポーツ。自身のスコアの向上をめざしながらも、ルールとエチケットを守り、コースを回るうちに仲間との絆を深めています。



「ハンディキャップ大会」に参った皆さん

お問い合わせ

三重県ターゲット・バードゴルフ協会事務局
TEL 0595-63-5339

(名張市総合体育館内)

緻密な作戦が勝利のための重要なポイント

ユニカール

【事務局 亀山市】



相手チームのストーンを弾き出して狙いの場所に

スウェーデン発祥の「ユニカール」は、「ユニバーサル・カーリング」の略。カーリングは平成4（1992）年の冬季オリンピックから種目に採用されている水上スポーツですが、そのルールを簡略化し、もっと手軽にできる陸上版として考案されたのがユニカールです。水の代わりにカーペットを敷き、その上にストーンを投げ滑らせ、センターサークルに近付けることで得点を競います。ストーンの重さは3キロあります。

ですが、腕力ではなく遠心力を利用するので、コツさえつかめば誰でも簡単に投げるすることができます。体力を気にすることなく楽しめるスポーツとして県内各地で盛んに行われています。

単に投げるだけ

でなく、相手のストーンを弾きとばしたり、自分たちのチームのストーンを助けたりしてゲームが進み、ボウリングのような正確なコントロールとビリヤード的なクッションを応用する技が要求されます。「カーリングの競技試合は2時間半ほどかかりますが、ユニカールは15分程度。短時間で勝敗がつくテンポのよさも人気の理由でしょう」と

「三重県ユニカール協会」理事長の小林茂さん。協会は平成9（1997）年に

設立されましたが、小林さんは日本にユニカールを紹介した大久保博さんから声を掛けられ、生涯スポーツとして愛好者が増えればと設立当初から関わってきました。普及指導員講習会を実施したり、クラブづくりや地域大会を支援し、平成12（2000）年から開催する「パールカップ大会」では三重に全国のプレーヤーを迎え入れています。



小林 茂さん



毎年盛り上がる「パールカップ大会」※

曜の夜。亀山市西小学校の体育館に15人前後集まっています。「出しにきたなあ」「微妙なところで止まったなあ」「開きすぎてしまった」と、一投ごとにぎやかな声飛び交います。相手チームのストーンを外に弾き出し、狙った位置で止まると、投げた本人が喜ぶのはもちろん、相手チームからも称賛の拍手が送られます。カーリング同様、チームで作戦をよく話し合うことが勝利の秘訣。1投目、2投目と進むにつれて、次にどの位置に投げるか、綿密な戦術を練らなければなりません。

ご好意に甘え、練習に参加させてもらいました。最初は滑らせ過ぎたり、届か



ストーンを3回、交代に投げる



バランスを崩さず遠心力を利用

なかったりしましたが、「ボウリングのような感覚で」と教えてもらい、徐々に狙った場所に近付けられるようになってきました。それでも、どこへ投げればチームが有利となるかは初心者では見当もつきません。その都度ベランの方にアドバイスを聞くうちに、チームメンバーとしての責任感も芽生えてきます。仲間の一体感が強まる姿も、ユニカールの大きな魅力なのでしょう。「全身を動かすので結構な運動量になっていますよ。体力だけでなく頭も使いますしね。それに小学生対大学生のように年齢差があっても、利き手じゃない方で投げたり、投げる位置を前後



練習に参加する「ハイサンユニカ」の皆さん

させたり、ハンディをつけて楽しむことができます」と、参加者の一人。ルールを柔軟に変え、多くの人で競技を共有する考え方は、ユニバーサルの理念と同じ。世代や性別に関わらず、皆が夢中になれるニュースポーツです。

お問い合わせ

三重県ユニカール協会事務局
TEL 0595-8215285

（小林 茂さん）

※印の写真は取材先から提供していただきました

みんなでワンチームになって、助け合う

キンボールスポーツ

【事務局 伊賀市】



サーブ練習をする笠谷 幸さん(向って左側)と皆さん

本年1月7日の夕刻、伊賀市ゆめが丘にある「三重県立ゆめドームうえの」を訪ねると、目に飛び込んできたのは、

て頑丈なのがわかります。持ち歩こうとしても重心が定まらず、コントロールするのに時間を要しました。

大きなゴム風船のようなインナーボール。これをカバーの中に入れて、電動プロアと呼ばれる道具で空気を入れているのは、中森 大輔さんです。「三重県キンボールスポーツ連盟(梅元渉理事長)の理事を務める中森さんの手元を見てみると、1分程度で大きなボールが出現。これがキンボールで、直径は122センチメートル、重さは約1キログラム。大きめのビーチボールのように見えますが、想像以上に硬く

「カナダで考案されたキンボールスポーツは、平成9(1997)年に考案者が来日して紹介したことから、普及が進みました。県内でも、同年の10月に連盟が設立され、現在、志摩市・鈴鹿市・伊賀市を中心に約100名の会員がいます」と教えてくれるのは、事務局の池澤 克将さんです。また、理事で広報担当の笠谷 幸さんに話を伺うと、キンボールスポーツには、バレーボールやラグビー、サッカーなど、さまざまな競技の要素が含まれますが、最大のポイントは、1チーム4名の3チームが同時に競技すること。しかも3チームが公平に得点を重ねられるように、1チームが失敗すると、相手2チームに加点されるなど、ルールが複雑になっています。

「この楽しさは体験してみないとわかりにくいので、とりあえずブラックとグレーの2チームで対戦してみよう」と誘われて、サーブから体験すること。コートの中で、チームメイト

3人が中腰になって支えるボールを両手で強く打つのですが、この時に必ず行うことは、「オムニキン、グレー(レシーブチームの色)とコールすること。すると、コート内で待ち構えていたグレーチームの一人がレシーブ。その後、ボールを持って走ったり、チームメイトにパスをしますが、3人目が触れたとたんに、その場所からサーブを開始。今度はグレーチームの一人が「オムニキン、ブラック」とコールしてプレーが再開します。この展開の速さは想像以上で、コート中を走り続けるとかなりの運

動量になりそうです。また、チーム内での助け合い・意思疎通はもちろんのこと、相手チームとの駆け引きなどを瞬時に判断しなければいけないため、集中力・判断力も必要だと痛感しました。この日の練習参加者は、上記3人に加えて、山口 浩司さん、濱島 良子さん、田中 凌夢さん、そして小学生の寺岡 龍音さんなど。皆さんに始めたきっかけを尋ねると「新しいことに挑戦してみたい」と思っていて「体験してみたら楽しくて…」という共通の言葉が返ってきました。その中で田中さんは、日本代

表に2年連続で選抜された逸材。サッカーのスライディングのような迫力満点のレシーブを見せてくれました。最後に「オムニキン」とは、すべての人が楽しめるスポーツという意味の造語だと教わり、納得しました。

お問い合わせ

三重県キンボールスポーツ連盟事務局
TEL 090-8735-2166

(池澤 克将さん)



キンボールのカバー(向かって左側)とインナーボール



足を使つてのレシーブ練習をする田中 凌夢さん



「第20回三重キンボールスポーツ交流大会」の様子※



毎月第1・3火曜日に「三重県立ゆめドームうえの」で練習する皆さん

森林や林業に興味を持つきっかけに

クツブ

【取材地 尾鷲市】



木と木がぶつかり生じる心地よい音

自然をフィールドに、コートのラインさえ引けば楽しめるクツブは、使用する道具がすべて木製です。クツブはスウェーデン語で「薪」を意味し、家の軒下にあった薪を使って遊んだのが起源でないかといわれています。600

年以上の伝統があり、スウェーデンのゴットランド島では、毎年世界選手権が開かれるほど、広く受け入れられている競技スポーツです。

「集中力がいらすし、対戦相手が見ている前で投げるのでプレッシャーもあり、メンタルも強くなりますよ」と三重県クツブ協会（吉田 正木会長）の事務局として普及に努める樋口大輔さん。コートにセンターラインを引き、2チームが向かい合って試合をします。

角材をベースクツブとして並べ、コートの真ん中には一番大きなキングが置かれます。相手

コートのクツブをめがけて、丸棒のカストピンナを6投ずつ交代で投げていきます。自分のコートのクツブが倒されたら、次のターンでそのクツブを相手コートに投げ入れてから攻撃。投げ入れたクツブは、フィールドクツブと

呼ばれ、新たな的となり、ベースクツブより先に倒さなければなりません。また、フィールドクツブを倒せなかった場合は、相手がセンターラインに一番近いクツブの位置まで前に出て攻撃をすることができるようになるため、展開がぐっとおもしろくなり、緊張感も生まれます。相手コートにあるクツブをすべて倒せば、中央のキングに挑戦。先にキングを倒せば勝ちとなりますが、クツブ全てを倒す前に誤ってキングを倒してしまうと、その時点で負け。戦術や駆け引きもポイントとなり、ゲーム性の高いスポーツです。

「ルールはわかりやすく、チェスのようだという人もいます。対戦相手さえいれば2人でもできますし、6投を順に回せばいいので何人でもできます。コートの大きさもローカルルールを設



道具はヒノキのいい香り

けて、子どもたちの成長に合わせた楽しみ方ができます」と尾鷲市クツブ協会「の松永 理寛会長。林業盛んなまちでクツブの普及に取り組もうと、尾鷲市では尾鷲ヒノキで用具を90セット製作し、市内の小学校やコミュニティセンターなどに配布しました。イベントでクツブ体験を行っているほか、三重県や「三重県クツブ協会」と連携して、クツブ普及指導員の養成講座や誰でも参加できるオープン大会を行っています。クツブのルールで特徴的なのがハイタッチです。クツブを倒した時の決ま

りになっているのですが、ルールでなくとも無意識に仲間とハイタッチで盛り上がります。見事的な当てには、相手チームからも感嘆の声が上がります。またカストピンナがクツブに命中すると、その音とともに爽快感を味わえ、心地よい響きはストレス解消にもなるようです。投球力がなくても、振りの力を使うことで遠くに飛ばせるようになります。大人も子どもも一緒に楽しくプレイできます。また高齢者にはゲートボールに替わる娯楽としても人気。クツブを投げたり、拾ったりの繰り返しで筋力



「尾鷲クツブオープン2019」の様子※



ハンデをつけて、投げる位置は前方で



ナイスショットに思わずハイタッチ



「三重県クツブ協会」樋口 大輔さん(右端)、
「尾鷲市クツブ協会」松永 理寛さん(右から4番目)と
「熊野古道センター」での練習に家族や知人と訪れた皆さん

お問い合わせ

三重県クツブ協会

Mail: miekubb@gmail.com

もついていたという声も聞こえます。

スポーツ振興だけでなく林業振興にもつながるよう、クツブから多くの人が森林や林業にも関心を持つてくれたら期待されています。平坦な場所さえあればできるエコロジカルなスポーツが、森林教育にもつながっています。

自然体験あそび塾 チームわらべ

三重県中部に位置する松阪市の中で、飯南町は白猪山しらいざんの麓ふもとに開けた自然豊かなところ。地域を流れる榎田川の清らかな水が四季折々の恵みをもたらす、深蒸し煎茶の松阪茶（飯南茶）や松阪牛などの産物が育まれています。これらの自然や産業を活かし、地元有志の「自然体験あそび塾 チームわらべ」が体験プログラムに取り組んでいます。



鈴木 由美さん(左)
代表の山本 齊さん(中央)
鳥本 均さん(右)

お問い合わせ

「自然体験あそび塾
チームわらべ」
松阪市飯南町粥見1768-1
TEL 090-3257-8665
(代表 山本 齊さん)

三重県内で活躍するグループを紹介する「いま、グループネット」。今回は、松阪市飯南町出身の仲間が集まり、地域でさまざまな自然体験や産業体験を行なっている「自然体験あそび塾 チームわらべ」の活動内容について、グループの代表である山本 齊さんやメンバーの鳥本 均さん、鈴木 由美さんにお話を伺いました。

——グループができたきっかけを教えてください。

山本：私が飯南町にある「リバーサイド茶倉」に勤めていた当時、集客企画として自然体験をはじめました。クヌギの広場で遊んだり、記念植樹をしたり、榎田

川の水について学んだりしました。子どもたちが自然の営みと大切さを肌で感じ、地域の伝統や産業にも興味を抱くようになってくれたらと思ったのです。退職してからも、地元有志6人で活動を続けています。グループ名は「わらべ」ですが、平均年齢は70歳。我々自身が童心に帰って、遊び心を持って地域のことを伝えていきます。

——具体的な活動内容はどんなことでしょうか。参加した人たちの声も聞かせてください。

山本：飯南茶や松阪牛、木工品など、地域に根付く産業を活用し、参加者の要望に合わせて、お茶摘みや農家見学、木工工作などをしてもらっています。飯南町

してくれず。それに芋掘りや落花生の収穫では、種として栽培するために持って帰りたいという子も。子どもたちが自然に対して関心を持つきっかけとなれば嬉しい限りです。5年前からは休耕田でフジバカマを育てています。

——渡り蝶の飛来地をめざしているのですね。

鳥本：アサギマダラは美しいだけでなく、個体によっては2000キロも飛行する生命力に心を打たれ、フジバカマを育て、希望する人に株分けもしています。アサギマダラの里と呼ばれるようフジバ



青々と緑茶香るお茶摘み体験※



製材の切れ端を使った木工工作※



フジバカマに集まるアサギマダラ※



イベントを盛り上げるキッチンカー

のヒロメなど地域の食材を混ぜているので、喜んでもらっています。最近ではキッチンカーで出かけることも多く、豚汁や薬草天ぷら、時にはポップコーンなど、作れるものは何でも作ります。

——自然の中には、遊びの要素と地域の歴史、先人の知識が詰まっていることを、体験を通して子どもたちに伝えていく「自然体験あそび塾 チームわらべ」。好奇心が騒ぎ出し、自分たちが楽しめることを基本に活動が続け、子どもたちに託す未来のふるさとを思い描いています。

インタビュー…中村 元美

いなべ市大安町

片槌界限

まんぼとは、素掘りの地下水路のことで、その深さは5〜7メートル程度。また、水源は主に3種類あり、湧水（地下水）・川の水・溜池の水を利用しています。江戸時代には、鈴鹿山麓のいなべ市から鈴鹿市にかけて盛んに掘削が行われ、地域に恵みをもたらしました。先人たちが長年にわたって築き上げ、貴重な文化遺産でもある、まんぼですが、近年は数が減少しています。そうした中、今も8ヘクタールもの水田を潤し続けているのが、大安町片樋地区にある「片樋のまんぼ」です。

今回は、市の文化財および史跡に指定されている「片樋のまんぼ」と、ゆかりの地を巡ります。

取材・文…中村真由美

取材・文：中村真由美

「おかげ参り旅立ちの地」

今回の散策は、三岐鉄道三岐線「丹生川」駅（わが）から始まります。「まんぼは地下水路のため、一般には内部を見ることができませんが、『片樋のまんぼ』には、見学可能な場所があります。途中に神宮ゆかりの地もあります」とのお話で、駅舎を後にして南東へと進みます。しばらくの間、住宅地を歩くと、石燈籠（いどうろう）が



石燈籠



「おかげ参り旅立ちの地」



昭和59(1984)年建立の「間風顕彰之碑」

今回の案内人は「ふるさといなべ市の語り部の会」会員の伊藤 美善（みよし）さん。片樋生まれで、地域の歴史に精通しています。



所要時間／約2時間 ※所要時間は、おおよその目安です。

START

三岐鉄道三岐線「丹生川」駅 約600m → 「おかげ参り旅立ちの地」 約700m → 「片樋のまんぼ」「間風顕彰之碑」 約100m ↓
三岐鉄道三岐線「三里」駅 約1300m → 教養寺 約400m → 大神社 約100m → 庄屋墓地 約600m → 「片樋のまんぼ」出口

先人たちの汗の結晶

「では、安全に気を付けて見学しましょう」と促されて石碑脇の階段を下りていくと、目の前にまんぼが出現。その幅は1メートル、高さは1.5メートル程度。かがんだ姿勢で奥へと1、2歩入ってみ

見えてきました。ここは、お伊勢参りの出発点であり、村人総出で代参者ださんしやを見送り、出迎えた場所でもありました。さらには、参宮できない人たちが、この地よちで選擇したのです。

平成12(2000)年に「おかげ参り旅立ちの地」として整備された一画に別れを告げて再び歩くと、やがて光景は一変し、周囲には田園風景が広がります。すると、あちこちに「片樋のまんぼ」の案内

板が目に付くようになりました。これらに導かれて歩くと、「間風顕彰之碑」と刻まれた石碑などに出迎えました。「間風とはまんぼのことで、間歩・間保などと書く場合もあります」と教わります。まんぼの起源は定かではないものの、いなべ市内には、江戸時代に銀や銅の採掘で隆盛を極めた治田鉦山はうたけがあり、鉦石を採取するための坑道（間府まぶ）を造る技術が発達していました。その技術が農民に伝わったとも考えられています。

毎年7月1日近くの日曜日にまんばん
祭」が行われる同石碑の周囲には、駐車
場なども整備されています。地域の人々
が誇りに思い、大切にしていることが
伝わります。



大神社



大神社境内の池沼



教楽寺

問「ふるさといなべ市の語り部の会」
TEL 090-3583-2827
(伊藤忠代表)

教楽寺から、今回の散策の終点、三岐鉄道三岐線「三里」駅までは、徒歩16分程度。地域の人々が200年以上にわたって大切に守ってきた「片樋のまんぼ」探訪は、これで終了です。

何よりも大切に嬉しいことなのだと改めて理解できました。

教楽寺から、今回の散策の終点、三岐鉄道三岐線「三里」駅までは、徒歩16分程度。地域の人々が200年以上にわたって大切に守ってきた「片樋のまんぼ」探訪は、これで終了です。



昭和43(1968)年に建立された歌碑

りました。墓地では、工事のために私財をつぎ込んだ2人の庄屋、富永太郎左衛門と二井藤吉郎の名前を刻んだ墓石を見つけることができました。

静かにたたずむ2基の墓石に手を合わせた後は、「片樋の歴史に欠かせない大神社と教楽寺にも寄って行きましよう」と案内されて、一旦来た道を戻ります。お話の大神社は墓地のすぐ近くに鎮座していましたが、江戸時代の大旱魃の際に雨乞いをしたところ、大雨が降ったと伝わ

ところ、意外にも温かく感じました。内部の気温は一年を通して18度前後のため、冬期には温かく感じるのだと教わりま

す。また、水温も16度前後のため、大寒のころに堆積した土砂などを除去する「まんぼ浚え」を行う際も、寒さは気にならないとい

と、ここで、片樋地区でまんぼの掘削工事が行われたのはなぜなのでしょう。同地区は三方を員弁川・青川・源太川に囲まれているものの、高台に位置するため、古くから十分な農業用水の確保が難しい状況でした。そこで考えたのが、地下の湧水などを集めて利用する横井戸式の水路だったのです。



「片樋のまんぼ」



まんぼ内部の様子

工事に着工したのは、明和年間(1764~1772)末期のこと。当時の庄屋・富永太郎左衛門が中心となり、村民一丸となって進めましたが、狭くて暗い中を、ツルハシやトグワを使って掘っていくのは、並大抵のことではなかったでしょう。完成までに実に5年もの歳月を要しました。

しかし、地域に再び苦難が襲います。約80年後の安政の大地震で水の出が悪くなったのです。そのため、文久2(1862)年に時の庄屋・二井藤吉郎が改修と延長工事を実施。その結果、総延長は約1キロメートルに達し、全国でも有数の規模となりました。

工事に着工したのは、明和年間(1764~1772)末期のこと。当時の庄屋・富永太郎左衛門が中心となり、村民一丸となって進めましたが、狭くて暗い中を、ツルハシやトグワを使って掘っていくのは、並大抵のことではなかったでしょう。完成までに実に5年もの歳月を要しました。

まんぼの出口からは、方向を北東へと変えて歩きます。しばらくすると、「まんぼ掘削の恩人富永・二井公の墓地」と記した案内板が目



庄屋墓地



まんぼの出口

細い道を進みます。お話のまんぼの出口は、現在は江戸時代の姿を留めてはいませんが、地上の水路をさらに流れて、8ヘクタールの広さの水田を今も潤しているのです。

「次は、2人の庄屋が眠る墓地に行きま

すが、その前に出口も見えておきましよう」との案内で、住宅地の

恩人たちが眠る

三重 の シンボル

菟野町

三重県内の市町などが、それぞれの特徴を象徴する存在として選定している木・花を紹介します。



町の木
ケヤキ



町の花
コモノギク

■ お問い合わせ ■

菟野町役場 企画情報課 TEL 059-391-1105

*市・町名の50音順に紹介しています。

*シンボルを選定していない、もしくは鳥や魚などを選定している市町も一部あります。

表紙写真 ペタンク（事務局 津市）

百五銀行 丸之内本部棟内の「歴史資料館」で、「すばらしき“みえ”」のバックナンバーをご覧ください。

☎ 経営企画部広報ESG課 TEL 059-223-2326（要予約）